

「吉備の刀part2 日本刀のみどころ 地鉄と刃文」出品目録

期間：2025年11月15日（土）～2026年3月3日（火）

展示場所	作品名	作者名	形状	材質技法	制作年	備考
刀陶の間	千古の夢（複製）	河原修平				
刀陶の間	円筒埴輪 伝岡山市浦尾古墳群出土				古墳時代初期 4世紀	
刀陶の間	円筒埴輪 伝岡山市浦尾古墳群出土 上記埴輪に伴って出土したもの				古墳時代初期 4世紀	
刀陶の間	弥生大壺 伝倉敷市酒津地区高梁川流域河 床出土				弥生時代末期 3世紀	
刀陶の間	上古刀 伝総社市三須の古墳より出土				古墳時代 6世紀	
刀陶の間	鉄戈 伝広島県福山市東深津町の古墳 より出土				古墳時代 6世紀	
刀陶の間	土師器 蓋 伝倉敷市酒津地区高梁川流域河 床出土				弥生末～古墳時 代 3世紀	
刀陶の間	土師器（手焙り形） 伝倉敷市酒津地区高梁川流域河 床出土				弥生末～古墳時 代 3世紀	
刀陶の間	弥生土器 鉢 伝倉敷市酒津地区高梁川流域河 床出土				弥生時代末期 3世紀	
刀陶の間	備前 大甕				南北朝～ 室町時代初期	
刀陶の間	備前 四耳葉茶壺				南北朝～室町時 代	
刀陶の間	備前 四耳壺				桃山時代	
刀陶の間	備前 葉茶壺				桃山時代	
刀陶の間	備前 四耳葉茶壺				桃山時代	
刀陶の間	備前 三耳種壺				江戸時代	

刀陶の間	備前 耳付水指		桃山時代		
刀陶の間	備前 烏帽子形水指		江戸初期		
刀陶の間	備前 棒の先水指		桃山時代		
刀陶の間	備前 水指		桃山時代		
刀陶の間	備前 大海茶入				
刀陶の間	備前 大海茶入		桃山時代		
刀陶の間	備前 肩衝茶入 銘「不動」 小堀遠州命名		桃山時代		
刀陶の間	備前 緋襷茶入 銘「深山路」		桃山時代		
刀陶の間	彩色備前 水仙香合	三村陶景	大正～昭和時代		
刀陶の間	備前 羽簾香合	金重模陽か	明治～大正時代		
刀陶の間	備前 布袋香合				
刀陶の間	備前 ぐり彫香合				
刀陶の間	雉香炉		江戸中期		
有彩の間	俊子像	河原修平	額装	油彩、カンバス	1944
有彩の間	豆をよる母	河原修平	額装	油彩、カンバス	1947
有彩の間	節子像	河原修平	額装	油彩、カンバス	
有彩の間	寝りし吾が最愛の行雄	河原修平	額装	紙本淡彩、ペン 画	1947
有彩の間	母子	河原修平	額装	油彩、カンバス	c.1949
有彩の間	初秋・妹	河原修平	額装	油彩、カンバス	1941
有彩の間	母親とその息子	河原修平	額装	油彩、カンバス	1935
有彩の間	Querer es poder (望めば叶う)	川埜龍三		備前焼	2020-21
有彩の間	Cada persona es un mundo (誰もが世界を持っている)	川埜龍三		備前焼	2020-21

有彩の間	涙とともに消えないものは、 ため息とともに消え去る	川埜龍三	備前焼	2014
翰墨の間	太刀 銘 宗貞	宗貞		平安末～鎌倉時 代初期
翰墨の間	刀 無銘 (伝手搔)	無銘 (伝手 搔)		南北朝～室町初 期
翰墨の間	脇差 銘 備州長船祐光	六郎左衛門尉 祐光		1565 個人蔵
翰墨の間	刀 銘 備州長船法光作	法光		1532
翰墨の間	太刀 銘 備中国水田住山城大 掾大月又七源国重	国重		1706
翰墨の間	刀 銘 多田貴勝	多田貴勝		1801
小窓ギャラ リー	備前 獅子香炉			江戸時代
小窓ギャラ リー	備前 騎亀寿老人	藤原陶斎		
小窓ギャラ リー	備前 桃形香合			明治～ 昭和時代初期
小窓ギャラ リー	備前 ござる香合	初代小西陶古		明治～ 昭和時代初期
小窓ギャラ リー	備前 雉香合			江戸時代後期
小窓ギャラ リー	備前 犬香合	春湖窯		昭和時代
小窓ギャラ リー	備前張子戌寅香合	浦上善次		
小窓ギャラ リー	備前 緋襷肩衝茶入	金重陶陽		
小窓ギャラ リー	備前 扁壺	宮尾昌宏		2014
小窓ギャラ リー	備前 小壺	多久守		2016
小窓ギャラ リー	備前 徳利・酒呑	山下有仁		2011
小窓ギャラ リー	備前 茶碗	大澤恒夫		2016
小窓ギャラ リー	備前 緋襷徳利	大澤恒夫		2012
小窓ギャラ リー	工場	川埜龍三		